

主な受章・受賞 (2012年7月～2013年8月)



平成24年 文化勲章

2012.11受章

小田 滋 名誉教授

1949年東北大学の講師として着任。直後にロックフェラー財団による戦後の米国留学の第一期生となる。1953年東北大学法学部助教授を経て1959年東北大学法学部教授就任。1968年国際司法裁判所ドイツ政府弁護人、1976年国際司法裁判所裁判官を歴任。国際司法裁判所の判事在职27年は、前身である常設国際司法裁判所を含め史上最長記録。1985年東北大学名誉教授。1991年国際司法裁判所副所長。2003年瑞宝大綬章受章。2007年文化功労者に選ばれた。

平成24年 秋の紫綬褒章

2012.11受章

宮下 徳治 名誉教授

高分子化学への多大なる貢献が認められ受章。高分子ナノシート集積体に関する研究で、高分子学会賞(1997年)および高分子科学功績賞(2012年)、新規分子センサー、分子イメージングシステムの研究により日本化学会BCSJ賞(2000年)、高分子ナノ材料を用いた光電変換素子、光ダイオード素子の開発により基礎錯体工学研究会賞(2004年)、フィルムエレクトロニクスに向けた高分子ナノ集積体に関する研究で文部科学大臣表彰科学技術賞(2011年)を受賞。新規高分子ハイブリッド基板材料の開発にも寄与している。



平成25年春の紫綬褒章

2013.04受章

薬学研究科 寺崎 哲也 教授

「身体の中の薬の運命を解き明かす研究」に取り組み、脳の血管を介して脳から血液へ物質が輸送される仕組みを調べる方法を開発。消化酵素で蛋白質を分解し、水に溶けやすい蛋白質の一部を選んで、質量分析装置を用いて定量する。この技術は東北大学特許として日本や米国などで登録され、欧州でも認められている。東北大学ディスティングイッシュトプロフェッサー・東北大学大学院医学系研究科・東北メディカル・メガバンク機構も兼務している。

日本学士院賞

2013.03受賞

東北大学電気通信研究所長 中沢 正隆 教授

小型高効率広帯域の光増幅器(EDFA)を世界で最初に実現。エルビウムという元素を添加した光ファイバを半導体レーザーで活性化して光信号をそのまま広帯域増幅するもので、電氣的増幅器のおよそ千倍の通信容量がある。しかも小型小電力で長寿命であることから、海底光ケーブル通信システムの光中継器として世界各国で広く用いられるようになった。これにより、今では世界中の人々が即時に情報交換ができるような高度情報化社会が実現した。

佐藤 英明 名誉教授

哺乳動物の繁殖効率向上に欠かすことのできない、卵巣内での優れた卵子の選択的生産の仕組みを解明した。即ち、卵子の選抜成熟には、卵胞刺激ホルモン抑制因子、卵子生存促進因子、血管増殖因子などの支援や、卵子成熟抑制因子からの解放など多数の重要な要因が関わることを発見した。これらの知見をもとにウシ、ブタなどの大型優良家畜の効率生産技術の開発のみならず、ヒトの卵巣機能不全の治療など臨床応用でも貢献した。



2012 IEEE GRSS Education Award受賞

2012.07受賞

東北アジア研究センター 佐藤 源之 教授

ドイツ・ミュンヘンで開催された国際会議IGARSS2012において、IEEE(米国電気電子学会)GRSS(地球科学リモートセンシング部会)より、2012年度教育賞(Education Award)を受賞。本賞はリモートセンシング研究に関して、教育、研究者育成について際立って優れた功績をあげた会員に授与されている。地中レーダ、マイクロ波リモートセンシングの分野において中国、ロシアなど外国での活動を含む大学院教育、集中講義などを精力的に行い研究者養成に貢献してきたことが認められた。



平成24年度日本医師会医学賞

2012.10受賞

医学系研究科 下川 宏明 教授

下川教授は、日本人の虚血性心疾患の成因に重要な関与をしている冠動脈攣縮の研究における世界の第一人者。今回の受賞は「日本人の虚血性心疾患に関する基礎的・臨床的研究」に関する業績が高く評価されたもの。幅広い基礎的・臨床的研究によりその分子機構を解明し、新薬の開発にもつなげた。血管内皮や虚血性心疾患においても、世界の研究に大きく貢献。東北大学医師会長、宮城県医師会議長として日本医師会でも活躍している。



フランス教育功労賞オフィシエ叙勲

2013.03叙勲

野村 正 名誉教授

この賞は19世紀初めナポレオンによって創設された歴史ある文化勲章の一つ。今回の叙勲により、長年にわたり日仏交流の推進に努め、大きな成果をあげてきたことが称えられた。専門分野である養殖学、海洋生物の生物化学、海洋生物学をはじめとする海洋科学技術分野での活動を通じ、日仏交流を支援。牡蠣が大量死滅の危機に瀕した際、日仏の牡蠣個体群の交換にも尽力した。タラソセラピーの技術を日本に広めたバイオニアでもある。



IUPAC 2013 Distinguished Women in Chemistry or Chemical Engineering Award受賞

2013.08受賞

原子分子材料科学高等研究機構・多元物質科学研究所 栗原 和枝 教授

「IUPAC Distinguished Women in Chemistry or Chemical Engineering Award」はIUPACが2011年の世界化学年プロジェクトのひとつとして創設したもので、今回は第2回目。日本からは2人目の受賞となる。1997年東北大学反応化学研究所教授、2001年東北大学多元物質科学研究所教授(改組による)、2010年東北大学原子分子材料科学高等研究機構教授。現在、日本化学会理事、日本学術会議化学委員会委員長も務めている。

